

平成 21 年度 事業報告書

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

学校法人北都健勝学園

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人北都健勝学園
2. 事業所の所在地 新潟県村上市上の山 2-16
3. 認可年月日 平成6年12月8日

4. 建学の精神

現代医療並びに社会福祉に対応できる専門知識を有し、医療スタッフの一員としての責任感と協力の精神に満ちた人材を育成し、21世紀における高齢化社会の医療と福祉に貢献しようとするものである。

5. 法人の沿革

月 日	内 容
平成6年 10月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーション専門学校設立準備室開設
12月	学校法人北都健勝学園寄附行為認可(新潟県) 新潟リハビリテーション専門学校設置認可(新潟県)
平成7年 4月	新潟リハビリテーション専門学校(理学療法学科 作業療法学科) 理学療法士 作業療法士施設指定承認(厚生省)
平成10年 12月	新潟リハビリテーション専門学校(言語聴覚学科) 言語聴覚士養生所指定承認(厚生省)
平成12年 4月	新潟リハビリテーション専門学校(理学療法学科) 入学定員増(40名)認可(新潟県・厚生省) 新潟リハビリテーション専門学校(鍼灸療法学科) 学科増設認可(新潟県) 新潟リハビリテーション専門学校(鍼灸療法学科) はり師・きゅう師養成施設承認(厚生省)
平成15年 12月	新潟看護専門学校設置認可(新潟県)
平成16年 4月	新潟看護専門学校(看護学科)指定承認(厚生労働省)
平成17年 12月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座3-3-7)開設
平成18年 7月	癒しのサロンFOU鍼灸院村上(新潟県村上市上の山2-16)開設
平成19年 1月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成20年 11月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座3-3-7)閉鎖
平成21年 9月	新潟リハビリテーション専門学校鍼灸療法学科指定申請取消
平成21年 10月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成22年 1月	新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院(新潟市西区みずき野2-20-98)開設
平成22年 3月	新潟リハビリテーション専門学校 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科募集停止届提出(新潟県)
平成22年 3月	新潟看護専門学校校舎各室用途変更認可(厚生労働省関東信越厚生局)
平成22年 3月	新潟看護医療専門学校東洋医療学科設置認可(厚生労働省関東信越厚生局)

6. 設置する学校・学科及び関連施設

- (1) 学校名：新潟リハビリテーション専門学校

学 科：理学療法学科，作業療法学科，言語聴覚学科，鍼灸療法学科

住 所：〒958-0053 新潟県村上市上の山 2-16

*平成22年4月より理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の学生募集を停止し、
鍼灸療法学科は新潟看護医療専門学校に移設

- (2) 学校名：新潟看護専門学校

学 科：看護学科

住 所：〒950-2264 新潟市西区みずき野 1-105-1

*平成22年4月より校名を「新潟看護医療専門学校」に変更し、東洋医療学科を新設

- (3) 学校名：新潟リハビリテーション大学院大学

研究科：リハビリテーション研究科

専 攻：リハビリテーション医療学

コース：摂食・嚥下障害コース，高次脳機能障害コース

住 所：〒958-0053 新潟県村上市上の山 2-16

*平成22年4月より「新潟リハビリテーション大学」設置に伴い名称を「新潟リハビリテーション大学
大学院」に変更

- (4) 施設名：癒しのサロンF O U鍼灸院村上

業務の種類：はり，きゅう

住 所：〒958-0053 新潟県村上市上の山 2-16

- (5) 施設名：新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院

業務の種類：はり，きゅう

住所：〒950-2264 新潟市西区みずき野 2-20-38

7. 定員，学生数の状況（平成22年3月31日現在）

	新潟リハビリテーション専門学校				新潟看護 専門学校	大学院	合 計
	理学療法学科 4年制 40名定員	作業療法学科 4年制 20名定員	言語聴覚学科 4年制 30名定員	鍼灸療法学科 3年制 30名定員	看護学科 3年制 40名定員	大学院 2年制 24名定員	
1 学年	36	14	5	3	42	6	106
2 学年	30	6	5	13	38	5	97
3 学年	34	18	18	7	35		112
4 学年	43	28	28				99
合 計	143	66	56	23	115	11	414

8. 役員等の概要（平成22年3月31日現在）

理事（定数8名）：8名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	適用
理事長	的場 已知子	常勤	平成14年 理事長就任
専務理事	紺野 英子	常勤	平成20年 専務理事就任
理事	川崎 久	非常勤	平成17年 理事就任
理事	大澤 源吾	常勤	平成17年 理事就任
理事	小野 敏子	常勤	平成17年 理事就任
理事	伴 雅史	非常勤	平成17年 理事就任
理事	浦壁 英紀	常勤	平成17年 理事就任
理事	伊林 克彦	常勤	平成17年 理事就任
監事	若穂 正英	非常勤	平成18年 監事就任
監事	鳥田 次郎	非常勤	平成19年 監事就任

評議員（定数17名）：17名

9. 教職員の概要（平成22年3月31日現在）

区分	本部	新潟リハビリテーション専門学校	新潟看護専門学校	新潟リハビリテーション大学院大学	計
教員	0	20	10	18	48
職員	8	6	4	2	20
計	8	26	14	20	68

II. 事業の概要

1. 法人（学園全体）

(1) 大学化に向けた取り組みについて

1) 学部設置申請について

平成21年5月末、医療学部リハビリテーション学科、理学療法学専攻、言語聴覚学専攻に設置申請書類を提出し、平成21年10月30日設置認可となった。

2) 鍼灸療法学科移転について

平成21年9月末、新潟看護専門学校に鍼灸療法学科設置申請書類を提出し、平成22年3月設置認可（厚生労働省関東信越厚生局）となった。これに伴い新潟看護専門学校は校舎各室の用途変更承認申請書の提出ならびに校名および学則の変更を行なった。

3) 学生募集停止等について

新潟リハビリテーション専門学校の鍼灸療法学科については平成21年9月、指定申請の取り消し申請を行ない、平成22年3月承認（厚生労働省関東信越厚生局）、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の3学科については平成22年2月、学生募集停止届を提出した。

(2) 大学院大学の学生確保に関する取り組みについて

1) 入学資格要件の改定について

平成 22 年度の入学資格要件を、「国家資格を有する者」から、「国家試験受験資格を有する者」まで広げることにより受験者数、入学者数の増加を目指した。また ST 国家試験合格発表後に最終の入試日を設定し、受験生の便宜を図った。

2) 大学化に向けた協力体制の強化について

カリキュラムのスリム化が決まり、平成 22 年度入学生から講義時間の軽減がはかれることとなり、学生の負担感が減少することにより、今までよりも一層研究等の時間が確保されるなど便宜が生じ、入学希望者の増加につながった。また、大学の学部増設に伴い質の高い学生確保が今後、可能となるであろう。

(3) その他

1) 寄附行為変更について

学部設置認可に伴い学園の寄附行為全体を見直し、平成 22 年 2 月に変更承認申請書を提出し、平成 22 年 3 月認可された。(平成 22 年 4 月 1 日施行)

2) 収益事業について

平成 22 年 1 月、新潟市西区みずき野に新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院を開設した。

3) 新潟総合研究所の事業報告について

学内広報誌(教職員向け)の DIPPER' S KIDS を 4 回、学外広報誌「はまなす」を 3 回、実践収録誌「ゆめ」を 1 回発行した。

4) 図書出版について

渡邊好博・佐藤舜也 著

「脊柱と四肢の構造とリハビリテーション—運動器の講義、生徒必携—」

全 P 42 完成。平成 22 年 4 月 1 日に発行予定。

2. 各学校の事業報告(学生に関する事項)

(1) 新潟リハビリテーション大学院大学

A. 学生・修了生の動向

完成年度が経過し、修士論文研究ならびに修士論文指導体制をさらに充実させ、今年度も 2 名の修了生を輩出した。また、入試の実施回数を 5 回に増やし、さらに最終入試の出願期間を ST 国家試験合格発表後に設定することで、出願の便宜をはかった結果、一般の出願者 1 名のほか、専門学校新卒者の受験が 5 名と増加した。また、完成年度を経て、本学修了生が輩出され、修了生による勧誘も効を奏した。

B. 学生教育・指導の充実

a. 長期履修制度の活用

社会人が履修しやすいよう、平成 20 年度より導入した長期履修制度が有効に活用され、平成 21 年度は、7 名の社会人学生が在籍した。

b. 特待生制度およびティーチングアシスタント制度の継続

学生の経済的負担軽減のために設けた特待生制度はすべての入学生に適用され、ティーチングアシスタント制度も通常履修生の 1 名に適用された。

c. 講習会および研修会の開催

1) ランチョンセミナーの継続および公開講座の充実

毎年継続して開催している専任教員による学内向けランチョンセミナーを今年も年 10 回開催した。また地域への開放講座は上海中医薬大学準教授による「中国伝統医学に基づく健康法」、ならびに学内教授による「味の不思議・のど越しの味」を開催した。

2) LSVTworkshop の開催

8 月に日本初の LSVTworkshop を村上市内にて開催し、本学への関心が高まった結果、出願まではつながらなかったものの、外部からの問い合わせが数件あった他、全国から大勢の S T や他職種が参加した。

3) 戦略的大学連携支援事業において連携校としての役割を果たす

文科省に採択された戦略的大学連携支援事業（代表：新潟青陵大学）の取り組みの一環として共生的連携の中で教職員の質を向上させる活動を実施している。さらに今年度は戦略的大学連携支援事業において大学フェアに出展する等、連携校としての役割を果たした。

d. 地域開放講座の開催

いきいき県民カレッジと連動した地域公開講座を引き続き展開し、地元根付いた大学をめざした。

B. 学園生活環境の充実

a. 研究環境・設備の整備

完成年度を経過したが、学部増設が決定したことに伴い、一層の研究環境・設備の整備が推進されるとともに、管理運営体制の強化変更を行った。

C. 第三者評価

a. 認証評価機関正式加入に向けての準備

今年度も引き続き財団法人大学基準協会の賛助会員となり、第三者評価実施に向けて諸準備を行った。

D. 教職員の質的向上

a. F D (Faculty Development) 研修会の実施

F D 委員会主導のもと、F D 研修会「テーマ：ハラスメントについて」を実施した。

b. 学生による授業評価の実施

学生による授業評価ならびに教員へのフィードバックを行ない、評価委員会で検討した。

c. 職員の研修等の参加

職員も、他大学や機関での研修等に積極的に参加した。

d. 戦略的大学連携支援事業の取り組み

文科省に採択された戦略的大学連携支援事業（代表校：青陵大学）の取り組みの一環として共生的連携の中で教職員の質を向上させる活動を実施した。

e. 研究強化、向上について

科研費をはじめとする外部資金の獲得を目指し申請を行った。

- f. 設置計画履行状況についての文科省の調査・指導
設置計画履行状況について文科省の調査・指導を受けた結果、留意事項がすべてクリアされた。今後はAC報告書の提出や実地調査を受ける必要がなくなった。
- g. 専任教員の研究業績をとりまとめ年報の作成
専任教員の各自が1年間の活動をまとめた年報を作成した。
- h. 教育・研究・管理運営体制の見直し
平成22年度からの新カリキュラムを検討、改定を決めた。また、学部を含めた新管理運営体制を決定した。

(2) 新潟リハビリテーション専門学校

A. 学生・卒業生の動向

今年度は創設15年目に当たる。

平成21年4月3日、64名の入学生（理学療法学科39名、作業療法学科16名、言語聴覚学科5名、鍼灸療法学科4名）を迎えた。今年度大学の設置認可に伴い学生募集を停止したことにより最後の入学生となった。

創設（平成7年）以来の入学生総数は1,565名となる。

また、平成22年3月12日、94名（理学療法学科38名、作業療法学科21名、言語聴覚学科28名、鍼灸療法学科7名）の卒業生を輩出した。

卒業生の3月末時点での就職内定率は、理学療法学科76%（未定；24%）、作業療法学科94%（未定；6%）、言語聴覚学科47%（未定；20%、進学；33%）である。また、未定の者でも、国家試験合格後より就職活動で行うため、追跡調査では例年1年以内に100%も就職率となっている。なお、診療分野への就職内定者が全体で約72%である。

B. 学生教育・指導の充実

a. 新1年生に対する新カリキュラムでの授業

新1年生に対して計画通り行った。

b. オフィスアワー制度の導入

導入したが学生の活用実績はなかった（オフィスアワーに関係なく学生が訪れていた）。

c. 全科目の学生による授業評価

通年科目の前期分と前期科目のみ実施した。後期は時間の都合で実施できなかった。

d. 国際福祉機器展の見学

理学・作業療法学科3年次の全員と希望学生1名とで実施した。

e. 授業・演習用機材の整備

「重心動揺計」と「呼気ガス分析機」は大学設置に合わせて新しい機械が導入された。

f. 講習会および研修会の開催

1) 就職相談会

平成21年10月31日、33施設の参加を得て実施した。

2) 就職支援講演会（年1回 2日間開催）

平成22年3月18・19日、ジョブカフェながおかの伊東氏担当。

3) 国試対策 夏季・春季セミナー（低学年期から継続的に実施）

1年生対象；平成21年4月18・19日、3年生対象；平成22年3月1日から4日、4年生対象；平成21年10月13日から16日および11月16日から19日の実施、いずれも篠原氏担当。既卒生は4年生と合同のセミナーを受講。

C. 学園生活環境の充実

a. 食堂メニューの充実化

食堂における昼食メニューや販売個数の拡大・充実を図った。ただし、夕食については利用者がほとんどおらず、中止とした。

b. 図書室の整備拡張、開放時間延長の固定化

前年度に引き続き図書室の開館時間を 20:00 までとし、学生の学習の便宜を図った。

c. 地域との交流

地域の伝統・文化・民俗を受け継いでいる地元の方々の中で学ばせるべく、祭りへの参加や学園祭の学外での開催などを援助した。

D. 教員の質的向上

a. 教員の学外研修

大学院大学をはじめとして診療施設への研修出向を推進した。

b. FD (Faculty Development) 研修の実施

月 2 回余、FD 研修を実施した。

E. 第三者評価

実施できなかった。

F. 鍼灸療法学科移設の準備

平成 21 年度末までに、学生・保護者への説明、移籍手続きならびに物品移転等々を滞りなく行った。

G. 同窓会との交流

専門学校閉校予定について役員会で報告した。

閉校後の同窓会の在り方についての検討を会長に依頼した。

(3) 新潟看護専門学校

A. 学生教育・指導の充実

a. 新カリキュラム(統合実習等)実施上の問題点・課題の検討

以前より課題であった実習の年次配置に向け、新たな実習施設確保に努力し内諾を得た。科目の見直しを含めた学則(教育課程部分)と実習施設の変更承認申請に向け準備を進めている。

b. 教員による授業の自己評価の実施

教員の授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。

c. 学生による授業に関する自己評価の実施

学生の授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。

d. 実習後の評価会議の充実

評価基準の徹底を図り、会議を充実させた。

e. 講習会および研修会の開催

1) 就職ガイダンス

主な実習病院の就職ガイダンスを開催。

2) 就職指導

面接試験対策、電話対応、履歴書の書き方等の指導を行い、就職活動の支援をした。

3) 国家試験対策特別講義

前年度の反省から、集中講義を見直して講義日程に組み入れ、年間を通じて国家試験を意識させながら指導を行うことができた。具体的な指導内容は以下のとおり。

①国家試験対策委員会での取組みの反省と指導の徹底

例年どおりチューター制度、国家試験対策特別講義や模擬試験を実施する等、合格率向上を目指した。

②全学年による合同模擬試験

例年どおり新潟国際情報大学の階段講堂を借用し実施した。国家試験当日の日程に合わせ本番さながらに行う模擬試験は、卒業生からも好評を得ている。

③予備校講師による特別指導

前年度の反省から、集中講義を見直して講義日程に組み入れ、年間を通じて国家試験を意識させながら指導を行うことができた。

④国家試験研修会への参加

昨年同様、国家試験合格に向けての研修会(東京)に参加し、それに基づき指導計画を立案した。

f. 入学前の指導

例年どおり、早期に入学が内定するAO入学試験、指定校推薦入学試験合格者に対し、12月から3月まで4回にわたり課題を与え添削指導を行い、緊張感をもって入学するよう指導している。

B. 学園生活環境の充実

a. 学生のアンケート結果に対する改善策の検討

施設設備をはじめとした学生の学園生活の充実のため、環境整備に努めた。

b. 図書室利用の改善

依然として改善されていない。引き続き改善策の検討が必要である。

C. 第三者評価

実施していない。

D. 鍼灸療法学科移設の準備

a. 平成22年度新設に向けての諸準備

学科設置申請、校舎各室用途の変更申請、附属東洋医療センター開設や学科設置と校名変更に伴う改修工事等、予定どおり準備を進めた。

E. 教員の質的向上

a. 各専門科目(領域)の研修計画の立案

各担当領域の分科会を中心とした研修会参加により、個々の教員が質的向上に努めた。

b. 実習指導者会議の充実

12月、新潟市内のホテルにて実習指導者会議を開催。会議終了後、初めての懇親会を行い、看護部長および実習指導者との親睦をはかった。

F. 講習会および研修会の開催

a. 就職ガイダンス

主な実習病院の就職ガイダンスを開催。

b. 就職指導

面接試験対策、電話対応、履歴書の書き方等の指導を行い、就職活動の支援をした。

c. 国家試験対策特別講義

前年度の反省から、集中講義を見直して講義日程に組み入れ、年間を通じて国家試験を意識させながら指導を行うことができた。

G. 卒業生・卒後教育に関する事項

a. 同窓会のあり方について検討

平成 21 年 10 月 24 日(土)同窓会つばさ会の記念すべき第 1 回総会を新潟市内のホテルにて開催した。会員数 158 名中、約 60 名の会員(卒業生)と教職員が出席し、初回にしては盛会であった。

今後も、定期的に総会を開催する等、会長はじめ役員が計画中である。

b. 卒業生が何処で活躍しているかの追跡調査

卒業時の就職先は把握しているものの、その後の動向調査はなされていない。しかし、何人かの情報は教員が把握している。

1 回生の卒業から 3 年が経過し、動きが出てきていると思われるため、同窓会と連携しながら追跡調査を考えていきたい。

c. 同窓会誌作成

同窓会の活動や収支報告等も含めた会報発行は、役員からも意見は出ている。役員と相談しながら、引き続き検討していきたい。

d. 卒業生に対する国家試験対策やスキルアップセミナーの開催

これまで同様、国家試験不合格者に対してのアフターフォローを継続している。具体的には、現役生と同じ模擬試験の日程を連絡し、予備校に通っている場合には、そこでの模擬試験を含め、どの模擬試験を受けるかを選択させ、計画的に勉強するよう指導している。

また、定期的に連絡をとり、仕事を含めた生活の現状や勉強の進捗状況の確認を行っている。必要に応じて本校に足を運んでもらうなど、フェイス・トゥ・フェイスで精神状態を含めたケアをしている。

スキルアップセミナーに関しては、今後の検討とする。

Ⅲ. 財務の概要

1. 概況説明

(1) 全般概況

本年度の財務状況は経年比較(表 1 から表 4)のとおりである。平成 21 年度は前年度に比べ、資金収入・帰属収入が大幅減額となった要因は、学生数の減少によるもの(リハビリ専門学校「3 学科」募集停止による減少が、大学開学「2 学科」増加数を上回った)であり、基本金の大幅増加は体育館建設等施設関係及び設備関係等約 1 億 4 千万円強の増加によるものである。

(2) 資金収支の状況

平成 21 年度資金収支計算書は表 2 のとおりである。

資金収入の減額理由は、学生数の減少によるものである。

資金支出は、人件費支出及び教育研究費支出で減額となったが、大学開学広報活動費等の

管理経費の大幅増加及び、体育館建設等施設設備約1億強及び設備関係約4千万円増加等の結果、資金残高としては前年比約1億7千万円減額の5億6千万円となった。

(3) 消費収支の状況

平成21年度消費収支計算書は表3のとおりである。

消費収支は、体育館建設等施設設備約1億強、設備関係約4千万円等の基本金組入額が大幅に増加した結果、消費収入が前年比約2億円減額となり、消費支出が前年比約7千9百万円減額となったものの、結果として支出超過が前年比約1億2千4百万円の大幅増加となった。

(4) 貸借対照表の状況

平成21年度貸借対照表は表4のとおりである。

資産関係では、大学開学関係固定資産約1億4千万円強が主要増加額であり、有価証券の処分が主要減少額である。

負債関係では、学生数減少に伴い前受金が大幅に減額した。

基本金関係では、大学開学関係の施設・設備取得に伴う組入額の増加である。

2. 経年比較

表1

区分	全般比較 (平成19年度より平成21年度)		
	平成19年度	平成20年度	平成21年度
資金収入	768,861	682,596	646,003
帰属収入	704,567	644,832	576,297
基本金	2,099,721	2,124,905	2,283,913
総資産	2,309,432	2,210,062	2,108,804

表 2

資金収支計算書
(平成 19 年度より平成 21 年度) (単位：千円)

収 入 の 部					支 出 の 部				
科 目	19 年度	20 年度	21 年度	うち大学院	科 目	19 年度	20 年度	21 年度	うち大学院
学生生徒等納付金収入	688,225	612,597	549,546	21,056	人件費支出	405,690	417,148	383,197	100,012
手数料収入	7,985	7,000	9,200	210	教育研究費支出	102,004	107,009	98,507	21,135
寄附金収入	600	0	600	600	管理経費支出	86,326	55,351	73,995	2,525
補助金収入	529	6,136	5,911	113	施設関係支出	0	7,767	109,836	0
資産運用収入	860	1,446	548	44	設備関係支出	4,348	42,040	44,061	925
資産売却収入	530	0	8,165	0	資産運用支出	25,321	4,292	3,508	0
雑収入	5,835	14,277	8,657	947	その他の支出	136,838	94,003	121,604	5,187
前受金収入	366,560	313,590	275,230	6,670	資金支出調整勘定	△8,307	△38,175	△15,363	△417
その他の収入	119,337	97,090	103,455	5,138	次年度繰越支払資金	741,079	734,238	560,893	0
資金収入調整勘定	△421,603	△369,540	△315,311	△6,600					
前年度繰越支払資金	724,439	741,079	734,238						
収入の部合計	1,493,300	1,423,675	1,380,241	28,179	支出の部合計	1,493,300	1,423,675	1,380,241	129,368

* 大学院の収支不足分は他部門より繰入 *22 年度 4 月より新潟リハビリテーション大学開学

表 3

消費収支計算書
(平成 19 年度より平成 21 年度) (単位：千円)

消 費 収 入 の 部					消 費 支 出 の 部				
科 目	19 年度	20 年度	21 年度	うち大学院	科 目	19 年度	20 年度	21 年度	うち大学院
学生生徒等納付金	688,225	612,597	549,546	21,056	人件費	407,435	414,333	384,295	100,084
手数料収入	7,985	7,000	9,200	210	教育研究費	174,108	179,512	175,278	26,546
寄付金収入	600	599	1,110	600	うち減価償却額	73,588	72,104	76,770	5,411
補助金収入	529	6,136	5,911	113	管理経費	89,341	58,312	76,956	2,525
資産運用収入	860	1,446	548	44	うち減価償却額	-	3,015	2,960	0
資産売却差額	529	0	193	0	資産処分差額	0	63,213	209	0
雑収入	5,835	17,053	9,787	1,342					
帰属収入合計	704,567	644,832	576,297	23,366					
基本金組入額合計	△3,739	△25,184	△159,007	△647					
消費収入の部合計	700,828	619,648	417,290	22,719	消費支出の部合計	670,885	715,371	636,739	129,155
					当年度消費支出超過額	29,942	△95,723	△219,448	△106,436
					前年度繰越消費支出超過額	△220,294	△190,352	△286,075	△215,511
					翌年度繰越消費支出超過額	△190,352	△286,075	△505,523	△321,948

表 4

貸借対照表
(平成 19 年度より平成 21 年度) (単位：千円)

資産の部				
科 目	平成 19 年度末	平成 20 年度末	平成 21 年度末	うち大学院
固定資産	1,537,359	1,456,555	1,534,880	56,753
有形固定資産	1,462,004	1,436,947	1,511,625	56,753
その他の固定資産	75,354	19,608	23,255	0
流動資産	772,073	753,506	573,924	40
資産の部合計	2,309,432	2,210,062	2,108,804	56,794
負債の部				
科 目	平成 19 年度末	平成 20 年度末	平成 21 年度末	うち大学院
固定負債	15,993	33,446	27,573	5,662
流動負債	384,069	337,785	302,842	7,767
負債の部合計	400,062	371,231	330,415	13,429
基本金の部				
科 目	平成 19 年度末	平成 20 年度末	平成 21 年度末	うち大学院
第 1 号基本金	2,054,721	2,075,905	2,234,913	81,344
第 4 号基本金	45,000	49,000	49,000	-
基本金の部合計	2,099,721	2,124,905	2,283,913	81,344
消費収支差額の部				
科 目	平成 19 年度末	平成 20 年度末	平成 21 年度末	うち大学院
翌年度繰越消費支出超過額	190,352	286,075	505,523	321,948
消費収支差額の部合計	△190,352	△286,075	△505,523	△321,948
科 目	平成 19 年度末	平成 20 年度末	平成 21 年度末	うち大学院
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	2,309,432	2,210,062	2,108,804	56,794

* 大学院の収支不足分は他部門より繰入

3. 収益事業

医療保険業を行っており、当期の状況は次の通りである。

(1) 損益計算書	千円	(2) 貸借対照表	千円
診療報酬	2,689	資 産	6,247
諸経費	4,321	負 債	91
当期損失	1,630	元入金	8,443
		繰越損失	2,287
		内現預金	6,091